

ふたり かけ 二人の影にも

■ 楽曲データ

歌詞：サトウハチロー 作詞

楽曲：古賀政男 作曲

発表：築地本願寺仏教文化研究会 1969年

初演：—

初出：—

管理番号：M1249

■ 創作の経緯

1969（昭和44）年、仏教文化講座が1000回を迎えたのを記念し、築地本願寺仏教文化研究会が制作・制定。1973（昭和48）年、「親鸞聖人ご誕生800年・立教開宗750年慶讃法要記念」として日本コロムビアから発行されたレコード『親鸞おどり』のB面に、島倉千代子の歌で収録された。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『仏教讃歌 二人の影にも』 発行者・発行年不明

比較資料：『佛教音楽』第31号 仏教音楽研究所 1995年

校訂の詳細：特になし

■ 解説

昭和の歌謡界にあまたのヒット曲を送り出した名コンビ・作詞家サトウハチロー（1903～1973）と作曲家古賀政男（1914～1978）による楽曲です。

◆ 歌詞について

サトウハチローの詞には、一読しただけでその世界が眼前に広がるような親しみやすさがあります。

題名にもよみこまれた「二人」の登場人物が心の通い合った間柄であることは、歌詞から想像できるでしょう。詞の各節では、まず初めの二行で、登場人物をめぐる情景が描かれます。そこから作詞者の視線は、彼らの「しあわせ」「うれしい」といった心情へと移り、さらに二人の心の拠りどころとしての仏さまをクローズアップしていきます。

曲の最後で「そこにもちゃんと みほとけが」とくちずきむとき、仏さまとともにある喜びは歌のなかだけにとどまらず、歌っている私たちにも同じように振り向けられていることに、思いを新たにしたいものです。

◆演奏のヒント

詞の世界にしみじみとした趣をそえるメロディーを存分に味わってください。中音域で歌い出した旋律は、「二人」の感情を表現するところ（33小節～）で大きく高揚します（この曲で最も高い音もこの部分にあります）。ところが、その後で音楽はすっと静まり、「そこにもちゃんと みほとけが」は低い音域となっています。このような落差で聴く人を惹きつけるところが、古賀メロディーの真骨頂といえるでしょう。

旋律は、歌詞一行を8小節のまとまりとして作られています。三拍子の揺れるようなリズム感を大切に。二回目の「そこにも」（49・50小節）は、音と音の間隔が広いので、音程に気を付けて。最後の「みほとけが」に向かって音域は下がりますが、気持ちは逆に上向きに保って歌い終わりましょう。

◆伴奏譜

『聖歌・讃歌集』第5巻（本願寺出版社刊）に掲載されています。

解説執筆：山口篤子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第223号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.